

## 【研究2】

### 研究課題

#### 育児期にある夫婦関係の自覚と夫婦ペアレンティングへの思い

##### 1. 緒言

我が国は晩婚化と非婚化が進み、結婚後5年以内の離婚率が高いと報告されている(厚生労働省, 2016)。夫婦ペアレンティングは、両親が親としての役割をどのように一緒に行うかということ(Feinberg M., 2003)とされ、広義では、「その子どもの世話と養育に責任を負うべき複数の養育者が共有する行為」(McHale J.P., 1998)とされている。出産後の夫婦関係では、夫婦の関係が悪化したケースは50%、変化のなかったケースは30%、向上したケースは20%となり、配偶者への愛情は半分のケースが30%減少し、心理的な葛藤や摩擦が増えている。加えて、夫婦のコミュニケーションも減少している(Belesky, J., et al, 1995)。同様に、夫婦の向き合いが産後減少し、母子の向き合いが有意に増加していた(佐々木他, 2007)。育児期をより良い体験にするために、結婚、妊娠、出産、育児に向き合うカップルに、夫婦ペアレンティングを実践するための留意点など有意義な示唆を示すことができると考える。

母親の心身の縦断研究(清水, 2017)では、母親の育児の自信には父親に相談できることが影響していた。どのように夫婦として共に子育てにあたっているのかという夫婦ペアレンティングの調整の実態とそのプロセスの解明の取り組みは少ない中で(加藤他, 2012/加藤他, 2014)、子育てを良好な夫婦ペアレンティングの調整の中で行うことは、育児を次の親世代に引き継ぐことができると考える。妻と夫がお互いの子育ての批判をどのように受け止め、その背景に何があると考えているか、アンケート調査の記述から分析した結果、妻は批判されたことに対する受け止めはネガティブなものが見られ、夫婦関係の歪みとして認識していた。一方、夫の受け止めは客観的で、それはそれとして聞いているものの、自分の考えで行っているところがあり、妻は夫である自分や、育児・家事に対する不満があると受け止めており、妻と夫の夫婦ペアレンティングの違いが明らかになった(清水, 2020a)。さらに、夫が子育てにかかわることに対して妻が尊重、支持、激励する行動を促進行動、夫が子どもに関わることに妻が拒否、避難、批判する行動を批判行動とした夫婦ペアレンティングの相関関連要因を明らかにした促進行動夫婦のペアレンティング調整は4パターン、ほぼ同じ割合にみられ、特に促進高-批判低パターンの妻が、心理的に良い状態を示していることが明らかになった。このパターンでは夫への感謝が高く、夫の支援のなさが低かった。さらに、育児不安が低く、話

し合いをよく行い、話し合いに対して納得していた(清水, 2020b)。

子育て期にある夫婦ペアレンティングの研究では、母親による父親関与への抑制要因、すなわち父親に子どもを任せられない状態(gatekeeping)だけではなく、促進要因の存在が指摘されている(加藤他, 2012)。妻の促進行動や批判行動の背景にある思いやその思いに関係していると考えられる夫婦関係の自覚を明らかにするために、ここまでの子育てに夫婦がどう過ごしてきたのか、夫婦関係の自覚や夫婦ペアレンティングへの思いに着目し、聞き取り調査を行った。

##### 2. 研究目的

育児期にある夫婦関係の自覚と実際的なかかわりの協働やその調整である夫婦ペアレンティングへの思いを明らかにする。妻の促進行動や批判行動の背景にある思いやその思いに関係していると考えられる夫婦関係の自覚を明らかにする。

##### 3. 研究方法

家庭訪問による半構造化面接を夫と妻と別に行った。相手の語りたい事柄を丁寧に聞き取った。面接対象者への許可を得てテープによる録音を行った。

###### (1) 調査対象

3歳から4歳の子どもをもつご夫婦で、調査協力の意志のある7組14名を分析の対象とした。

###### (2) 調査期間

2019年5月～7月

###### (3) 依頼方法

2018年7月に行われたX県内の3歳から4歳の子どもをもつ母親と父親を対象に保育園、幼稚園、子育て支援センターを通じて行ったアンケート調査において、訪問による聞き取り調査への協力の意志を確認するため、調査用紙の返送時に協力の意志のある方に連絡先(住所)の明記を依頼した。後日、その連絡先に調査の趣旨や方法について明記した資料を郵送し、返送により協力の意思と連絡先(電話)の明記を依頼した。その後、電話またはSNSで連絡を取り、訪問の具体的な日時や場所の調整をした。

###### (4) 研究デザイン

家庭訪問による個別インタビュー調査

###### (5) 調査内容

夫婦関係の自覚として、相手に対する気持ちと変化、夫

婦関係への満足、夫婦ペアレンティングへの思いとして、子育ての協力への考えとその根底にある思い、協力の実態と満足、協力を良好なものにするための行動や言葉がけとその背景にあるもの、子育ての協力をするうえで大切なこと、子育ての協力で阻害するもの、子どもが増えたときの協力の变化などであった。

### (6) 研究倫理

調査の依頼文には、自由意思による協力であること、聞き取りデータを行った後は個人が特定されないよう記号化して処理し、研究結果公表後破棄することを明記した。

### (7) 倫理審査

研究者の所属する大学の倫理委員会の審査を受け平成29年に承認（#274）を得た後に研究を開始した。

## 4. 結果

### (1) 対象者の属性

対象となった夫婦の属性を表1に示す。

妻平均38.9歳、夫41.1歳であり、結婚年数平均8.7年で子ども数は2.3人あった。14名の面接時間は46.9分±9.0(妻46.1分、夫47.6分)であり、妻は専業主婦4名、パートタイム1名、育休中1名、フルタイム1名であった。夫は全員フルタイムであった。核家族が6組、二世帯家族は1組であった。

対象者の属性

夫婦	インタビュー時間(分)	年齢(歳)	結婚年数(年)	子どもの数(人)	子どもの年齢(歳)	家族構成	職業/就業形態
夫婦1	妻a 夫A	45 40	34 35	9	3 7	5 0	核家族 専業主婦 会社員 フルタイム
夫婦2	妻b 夫B	30 46	43 45	7	2	5 0	核家族 会社員 育休中 会社員 フルタイム
夫婦3	妻c 夫C	65 52	45 45	14	3	11 9	5 核家族 自営業 パートタイム フルタイム
夫婦4	妻d 夫D	38 49	39 38	10	3	8 4	1 核家族 専業主婦 会社員 フルタイム
夫婦5	妻e 夫E	44 44	37 45	6	1	4	核家族 専業主婦 会社員 フルタイム
夫婦6	妻f 夫F	60 48	35 36	8	2	4 0	二世帯 自営業 フルタイム フルタイム
夫婦7	妻g 夫G	41 54	39 44	7	2	5 2	核家族 専業主婦 自営業 フルタイム

### (2) 夫婦関係の自覚と思い

妻
夫の育ちから夫の人柄がわかる a 言ったことに答えてくれる分夫はサポート者と思う a 夫は子どもどうまくやっているので心配ない a 常生活でも夫の判断や意見に従う e お互いに思いやっていることを自覚している f 思いやりや奉仕の気持ちをお互いに持っているからうまくやれている g
好きで結婚した相手だし自分を大事にしてくれてありがたい d ありがとよく言うようにしている d 言わなくても子どもを見てくれる夫に感謝の言葉を伝えている e 自分や子どもに献身的に尽くしてくれる夫に感謝している g
夫の判断に対する信頼 a 短い時間でも子どものことを相談し合っている b 夫と子育てに対する考えが一致しているのでイライラした気持ちを話すことができる e お互いに思いやりや愛情をもってその都度話し合っている e 夫に否定や批判をされることはない d 夫とは大事なことは話し合っている d 夫のことを尊敬し信頼しており大切にしていきたい b 夫の子どもへの接し方や教え方が勉強になる e 私に安全について注意するのは夫が子どものことを大事にしているからだ e 自分の親に対する気遣いがある f 子育ての価値観が一致している f
子育てで感じるポジティブな気持ちを子どもにも伝えていきたい b 苦しかった自分が娘と分かり合えたことで楽になった c お店をしているので子どもには寂しい思いもあるかもしれない f
夫を頼り立てるように思わせることで夫婦円満が保たれていると思う b 夫に育児に協力してもらうために自分なりに誘導している b 子育てを楽しみたいから夫とはいい関係でいたいしそのために自分は努力している b 夫に注意することもある d 言いたいことはためずにその時に言う d 子どもの勉強をよく見ているので自分が主導権をもっている d
夫に子どもへの接し方について相談することができその気にさせるアドバイスもらえる b 夫は頼るに値する能力があるからつい頼ってしまう自分に対して戸惑いがある b 細かいことにイラつくこともあるけど良くやってくれている d 夫を頼りにして尊敬している e 潔癖主義でせっちな自分に対して夫はそのことをわかって対応してくれている g パニック障害をおこしたときに夫は文句を言わずに支えてくれた g
夫は少しずつ言わなくてもやれるようになってきている d 夫に自分が育てられていると感じている b 下の子ができてさらに協力的になった f 夫は仕事が好きでよく働き自分と出会ってからは話すようになり角がとれた g
ママ友は頼りになる存在 a 夫は 土日は休みみたいなので家のことは子どもたちをお願いしている a 働くか家にいるか好きにしているといいと義母は言う a 一人目は大変だけど大きくなると助けてくれるようになった d
逆に子どもの関わりで夫に注意することもある a 父親にしかできない子育てをもっとしてほしい b 夫は家事や育児をよくやってくれているが口には出せない不満がある b 自分の子育てを否定されている感じ c 謝るのは認めるがその場で謝ってほしい c 子育ての分担はできていたが気に入らないことがある c 子どもが増えてくるともっとやってほしい気持ちが強くなる d 家事は自分の仕事だけれど本当はもう少しやってほしい d

物を買うときに子どもに過保護になってしまう夫に対してそれを抑えたい気持ちがある e

もっと夫に子どもの様子を伝えていきたい a  
夫と話し合いはしないけれども日記の交換をしている a  
子どもが増えて夫に言えるようになった a  
夫の帰りが遅いことは気になっているが嫌がりそうなことは言わない a  
余裕ができたなら喧嘩もしくなりこんなもんだと思えるようになった g

上の子の育ちを見て今の子育てでいいんだと思える b  
子育てで大切にしていることは自然に触れること d  
子どもの気持ちを大切にしたいので親だけでは決めない d

「仕事も子育てもしっかりやらなきゃ」の思いから職場復帰への迷いがある b  
夫も私も育った環境から土地が広い方がいいと思う a  
この先何があるか分からないからお互いの子育ての価値観に折り合いをつけている b  
両親のことは夫もつらいはず c  
お互いは理解しているが親に合わせているところがある f  
お店をしているので違うところはあるけれど分担してやっている f

**夫**

妻は自分にはない子どもに良い影響を与えられる交友関係を持っている B  
家族のために転職したが妻は気持ちを尊重してくれた D  
妻に注意された時には素直に聞ける D  
妻は教員免許を持っているので信頼している D  
夫婦間ではニックネームで呼びあっている F  
結婚しても二人の関係は変わらない F  
余裕がなくなると子どもにあたるが妻がかばってくれる F  
家事も育児もちゃんとしており不満はなくありがたいという気持ちをもっている G

妻は魅力的で一緒に居たいと思う存在 B  
好きで結婚したけれど対等ではられない今の方が好き D  
我儘などところのある自分を妻は我慢してくれている D  
妻を頼りにしている自分がある a-3 妻には特に求めることはない F  
直感でこの人が自分の相手だって思った F  
妻との相性があっている G

子どもより妻を大事にする A  
妻をほめてあげたい A  
自分の子育てに対するスタンスは変わっていない A  
子育てはあまり決めない方がよい A  
育児方針もない A  
子育てを分担する考え方は良くない A  
親の影響を受けている自分がある C

子どもが増えるに従って妻も自分も柔軟に対応できるようになった A  
自分の好む生活スタイルがあるけれどこういうものだと過ごしている A  
妻は一生懸命やっていると思っているがもっと経験から判断すべきだ C  
楽しいから妻とよく話をしている F  
子どもが増えて良かった F  
二人で出かけなくなり子ども中心の生活になっている G  
子育ての考えに違いはあるが落ち着いて興奮せずに妻に接していく C  
違いの訳は判らないがそんなもんだと受け入れるしかない C  
家庭を経済的に支えるため体調とのバランスをとっている D  
手伝いたい気持ちと休みたい気持ちのバランスをとっている D  
育った環境から価値観の違いはあるが折り合いが大切 D  
経済面は自分が主導だけど子育ては妻に任せている D

妻には子どもを置いて外で会合があるときにお願ひされる A  
自分からは妻に何かしようかとは言わない A  
片親では子どもがかわいそう C  
子どもがいるんだから違いを認め合わなければならない C  
妻に上の子も見てって言われることもある F  
自分の子どもだから自分も手伝う F  
子育ては当たり前のことだから家事も育児もやれるほうがやればよい G

自分が怒るときは妻に申し訳なく思う A  
妻の頑張りに答えたい気持ちがある B  
答えのないことが多い中で心と体のバランスが大切 C  
子どものことは何でも話し合い子どもを見ている妻の意見を尊重する D  
折り合いの中で可能な限り妻を手伝いたい D  
子どもが増えて妻の大変な姿を見て手伝いたい D  
子どもの話はよく聞いてやりたい F

何かあったらいけないので子どもよりは遅く寝る A  
妻と考え方に違いはあるがイライラする感じもなく不満もない B  
妻を立てているが偉そうにしない B  
妻は認められていない思いがあるので言い過ぎないようにしている C  
夫婦が同じ方向を見ていることが大事 F  
妻との会話からいろんなことがわかるので会話を大事にしたい G  
妻や子どものことが気になるので電話をする G

### (3) 夫婦ペアレンティングの思い

夫と妻の語りから、サブカテゴリ、カテゴリが抽出され、夫婦ペアレンティングの思いを以下に示す

#### 妻の思い

カテゴリ	サブカテゴリ
夫との協力関係への満足感	夫とうまくいっている実感がある
	夫への感謝の気持ちがある
	夫への理解と信頼がある
自分の子育てを支えているものがある	子育ての中で感じる気持ちを大切にできる
	夫婦関係に裏打ちされたコントロール力がある
	支えてくれている夫の存在がある
	成長している夫を感じる
夫に対する客観的な分析	夫の家族やママ友・子どもの支えがある
	夫へのささやかな不満がある
子どもへのかわりへの思い	夫とのコミュニケーションへの意識がある
	子どもとのかわりへの思い
	自分のおかれた環境を自覚している

#### 夫の思い

カテゴリ	サブカテゴリ
妻との協力関係への満足感	妻への信頼と感謝がある
	妻との関係に満足している
自分なりの妻や子どもへの考えがある	夫婦の協力に対するスタンスがある
	子どもに向き合っている
妻と助け合って子育てをするための努力	子育てを通した変化への気づきがある
	妻との折り合いをつけている
	妻と助け合うことはあたりまえ
	妻の気持ちがわかるから応えたい
	妻を支えながらうまくやっていきたい

## 5. 考察

### (1) 夫婦ペアレンティングへの思い

夫婦ペアレンティングを良好に発揮するための夫婦関係は、夫婦の信頼関係が維持され、お互いへの感謝や夫婦関係への満足感による夫婦関係の自覚があった。そして、自分の子育てを支えているものがあること、子どもへのかかわりへの思い、妻と助けあって子育てをするための努力をすることによって、二人の子育てや今の子育てへの自信や支えられている実感により、夫婦の協力関係は保たれていた。また、妻と支えあうことはあたりまえ、妻の気持ちがわかるから応えたい、妻を支えながらうまくやっていきたいなど、他の人に支えられている感覚や自らが感じる幸福感を大切にすることなどの夫婦ペアレンティングへの思いがあった。

夫婦間における共感的なかわりによって、夫婦、特に妻の関係満足度を高め、関係性を維持しているのではないかと(神谷, 2013)とされているように、夫婦が互いを理解し合うことは、互いの関係満足度に影響していることが本結果からも伺える。つまり、妻の夫との協力関係への満足感として夫への感謝の気持ちがある、夫への理解や信頼がある、夫とうまくいっている実感があることや、夫の妻との協力関係への満足感、妻への信頼と感謝がある、妻との関係に満足していることに現れている。そして、互いに支え合い、育ち合っているという夫婦関係の自覚は、妻の夫婦関係に裏打ちされたコントロール力や、夫の妻の気持ちに答えたい、助け合うことは当たり前などの考えや自分なりの柔軟さやバランス、うまくやりたい気持ちや、妻に支えられている子育ての実感による夫婦ペアレンティングへの思いにより、妻主導の中で夫がそれに対して柔軟に対応していることがわかる。

妻から夫に伝えるスキルが高いほど夫からのサポートが受けやすいと述べており(佐藤, 2012)、本結果からも、妻の、夫を立てているように思わせることで・・・とあるように、妻は夫を尊重する気持ちから夫を立てながら、一方で夫に育児に協力してもらうために自分なりに誘導しているとあるように、夫を自分の考える方向にコントロールしている妻の調整力が大きいことが分かる。それに加えて、夫の妻を立てる気持ちやうまくやりたい思いが夫婦ペアレンティングの根底にあると考えられた。

結婚生活の経過による夫婦満足度は、結婚年数が増えるに従ってハネムーン効果が薄れ低下している(永井, 2005)。そのため、未就学児がいるカップルで妻の夫婦関係満足度が低いことから、家族役割に関する看護者や周囲のサポート者からの説明や支援が必要になる。3歳の子どもを持つ母

親が抱く夫の協力が減ったと感じていると先行研究(清水, 2017)からも明らかにされているが、今回の結果では、むしろ夫婦の信頼関係を育てている姿があることに加えて、子どもが大きくなるに従い、夫とのかかわりが変化していることに気付いていることが聞き取れた。本研究から、そうした変化は、夫婦関係への満足感が根底にあることによって、夫婦ペアレンティングへの良い調整がなされていると考えられる。

本結果において夫とうまくいっている実感、夫への感謝の気持ちがある、夫への理解と信頼があることがから、良好な関係や夫の支援・信頼、パートナーの受容に類似する結果が示されていた。つまり、夫婦ペアレンティングでは、子どもが増え様々な困難を乗り越える中で、お互いが大切にしている思いや考えに支えられた互いの育ち合いや理解し合い、そして支え合いの姿と感謝の心によって、二人の関係への満足感が保たれていると考えられた。調査対象者の中には夫をコントロールしている妻の調整力が生まれ、夫もそのことを受け入れながらバランスをとっていた。

母親による父親関与への抑制要因、すなわち父親に子どもを任せられない状態(gatekeeping)だけではなく、促進要因の存在が指摘されている(加藤他, 2012)。本研究においては、母親のgatekeepingに関する語りは見られず、むしろ促進要因としての「ありがたいはよく言うようにしている」や「言わなくても子どもを見てくれている夫に感謝の言葉を伝えている」などの感謝を言葉にしている行動や、「夫に育児に協力してもらうために自分なりに誘導している」などの、夫を子育てに引き込もうとする具体的な行動や、「夫を頼り立てているように思わせることで夫婦円満が保たれていると思う」などの夫婦関係を保つための具体的な行動があった。

妻の、夫に対する客観的な分析では、夫へのささやかな不満がある、夫とのコミュニケーションへの意識がある、自覚は、妻の中で夫との関係性をプラスの方向に向かわせるための自身の中に湧いてくる不満や気づきでもあった。夫婦関係がうまくいっているという自覚は、夫婦ペアレンティングに良い影響をもたらしており、このうまくいっている自覚がもてないことは、プラスの方向に向かえない、閉鎖的な関係性が起こりうる。つまり、結婚して5年以内の離婚が多い(厚生労働省, 2016)ことについては、育児期にある産後クライシスの問題として発展していくことが考えられる。

### (2) 夫婦ペアレンティングを良好なものとする支援

夫婦関係の質において、夫婦関係満足度の高いケースには、互いに表出コミュニケーションが多く、夫への信頼が高く、役割としての関係よりも個人としての関係について

信頼が高いことが示されている(田中, 2016)。本結果においても、まずは夫婦としての互いの信頼や感謝の気持ちに支えられた夫婦関係への満足感が示されている。

また、子育ては夫婦でシェアする、共同して養育する考え方が海外ではある。しかし日本では性別役割分業の考えが根強く、よくあることから日本の夫婦にコペアレンティングがうまく機能しないと述べられている(江崎グリコ, 2020)。今回の調査においては、性別役割分業というよりは、互いの信頼関係や感謝の心、支え合い、理解し合い、育み合いの中で、二人の関係への満足感をもっていた。妻を支えたいという夫の思いと、子どものために、妻に支えられている実感の中で、二人の関係は保たれ調整されていることが分かった。

子育て期の妻は、会話時間と自己開示が関係満足度を大きく規定しているが、夫は、自己開示は妻ほど関係満足度に規定されず、妻の夫への開示が夫の関係満足度を規定していた。つまり夫は、子育て期においては会話時間が関係満足度を規定していた(伊藤他, 2007)。このことから、本結果から見えてきたことを夫婦への支援として生かしていくとするならば、夫婦ペアレンティングを良好なものにする。そのためには、二人の関係を良いものとするために、コミュニケーションをとること、特に妻は自分の考えや気持ち、悩みや弱点なども含めてありのままの自分をさらけ出すことが大切である。

また、夫婦ペアレンティングが保たれている場合は、すでに夫婦の間で互いの調整力が発揮されバランスがとれていることが明らかである。さらに夫婦ペアレンティングについて語ってもらい、支え、考え、支持することにより、夫婦ペアレンティングにおける望ましい行動が強化されるのではないかと考える。

子育て期にある夫婦の夫婦ペアレンティングを良好なものとする支援の、夫婦ペアレンティング調整尺度を検討する。

## 6. 結論

夫婦ペアレンティングを良好に発揮するための夫婦関係は、妻の「夫との協力関係への満足感」と、夫の「妻との協力関係への満足感」により、夫婦の信頼関係が維持され、お互いへの感謝や夫婦関係への満足感による夫婦関係の自覚があった。そして、自分の子育てを支えているものがあること、子どもへのかかわりへの思い、妻と助けあって子育てをするための努力することによって、二人の子育てや今の子育てへの自信や支えられている実感により、夫婦の協力関係は保たれていた。

また、妻と支えあうことはあたりまえ、妻の気持ちがわかるから応えたい、妻を支えながらうまくやっていきたい

など、人に支えられている感覚や自らが感じる幸福感を大切にすることなどの夫婦ペアレンティングへの思いがあった。

## 引用文献

- Belesky, J., Kelly, J. (1994) / 安次嶺佳子訳(1995). The Transition to Parenthood 子供を持つと夫婦に何が起ころか., 草思社, 東京, 10-60, 133-167.
- Feinberg M., (2003). The internal Structure and ecological context of coparenting. A framework for research and intervention. *Parenting: Science and Practice*, 12, 1-21.
- McHale JP, Rasmussen JL. (1998). Coparental and family group-level dynamics during infancy: Early family precursors of child and family functioning during preschool. *Development and Psychopathology*, 10, 39-59.
- 伊藤裕子, 相良順子, 池田政子(2007). 夫婦のコミュニケーションが関係満足度に及ぼす影響—自己開示を中心に—, 文教学院人間学部研究紀要, 9 (1) , 1-15.
- 江崎グリコ株式会社. <日本・フィンランド「Coparenting コペアレンティング」比較妊娠期・育児期の夫婦間意識調査>妊娠期からの夫婦の密なコミュニケーションが、育児期の産後うつや育児ストレス軽減に 子どもへの愛情や笑顔のあふれる過程につながる「Coparenting」社会を実現, [www.atpress.ne.jp/news/176629](http://www.atpress.ne.jp/news/176629). アクセス 2020. 1. 16.
- 加藤道代, 黒澤泰, 神谷哲司(2012). 母親の gatekeeping に関する研究動向と課題—夫婦ペアレンティングの理解のために, 東北大学院教育学研究科研究年報, 61 (1), 09-126.
- 加藤道代, 黒澤泰, 神谷哲司(2014). 夫婦ペアレンティング調整尺度作成と子育て時期による変化の横断的検討, *心理学研究*, 84 (6) , 566-575.
- 神谷哲司(2013). 育児期夫婦ペアデータによる家庭内役割タイプの検討 役割観の異動類型化と夫婦の関係性の視点から, *発達心理学研究*, 24, 238-249.
- 厚生労働省: 平成 28 年度ひとり親世帯等調査結果報告, ひとり親になった時の親及び未子の年齢, <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11920000-Kodomokateikyoku/0000188152.pdf>. アクセス 2020. 8. 5
- 佐々木裕子, 高橋真理(2007). 父親から見た第一子出生前後における夫婦関係の評価—家族イメージ法による分析を中心に—, *家族看護研究*, 13 (1) , 53-59.
- 佐藤小織(2012). 初産婦の夫婦関係の評価と育児満足感を構成する諸要因の関係に関する研究 育児初期の核家

- 族に焦点をあてて, 日本助産学会誌, 26, 222-231.
- 清水嘉子 (2017). 乳幼児の母親の心身の状態に関する縦断研究, 日本助産学会誌, 31 (2) 120-129.
- 清水嘉子 (2020a). 育児期にある夫婦ペアレンティング-互いの育児の批判をめぐって-, 日本助産学会誌, 34 (1) , 103-113.
- 清水嘉子 (2020b). 子育て期にある夫婦ペアレンティング調整パターンと関連要因, 母性衛生, 61 (2) , 340-351.
- 田中慶子 (2016). 家族形成期の夫婦関係の「質」とその後の評価, 季刊家計経済研究, AUTUMN, 112, 33-45.
- 永井暁子 (2005). 結婚生活の経過による妻の夫婦関係満足度の変化, 季刊家計経済研究, SPRING, 66, 76-81.
- Mchale, J. P. (1997). Overt and covert coparenting processes in the family. Family process, 36, 183-201, 15.
- 荒川恵美子, 西村昭徳, 菊池春樹他 (2017). 未就学の子どもを持つ夫婦の関係調整に関する我が国の研究動向, 東京成徳大学臨床心理学研究, 17, 188-197.
- 伊藤裕子 (2015). 夫婦関係における親密性の様相, 発達心理学研究, 26 (4) , 279-287.
- 宇都宮博. 結婚生活の長期化と夫の幸せ妻の幸せ, RADIANT, 1, 12-5, 12 , [www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/theart/heart/story2.htm](http://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/theart/heart/story2.htm). アクセス 2020. 1. 16.

清水嘉子. 育児期にある夫婦関係の自覚と夫婦ペアレンティングへの思い. 日本助産学会誌. 35 (2) , 145-154. 10.3418/jjam. JJAM-2020-0027 一部加筆